

【人文社会系（社会科学）】

地域統合のスピルオーバー効果とサイクル効果：アジアと拡大EUの成長と循環

こうさか あきら  
高阪 章

(大阪大学・大学院国際公共政策研究科・教授)

【研究の概要等】

世界経済のグローバル化はWTO・IMF体制のもとで財・サービスおよび資本の国際移動を活発化している。なかでも地域統合化は域内連関を高め、国際分業に基づく「生産ネットワーク」の拡大・深化が各国の経済成長を促進していると思われる（「スピルオーバー効果」）。もっとも、これに関する実証研究は比較的未開拓な分野である。

他方、資本市場の連関の高まりが成長効果をもつかどうかについて従来の実証研究の評価は定まっていない。むしろ、資本移動の活発化が金融リスクを拡大し、金融危機をもたらしている可能性がある。統合化が景気循環に与えるインパクトは、従来、余り注目されなかったが、金融リスクを潜在化することによって景気循環を増幅する傾向がある（「サイクル効果」）。

そこで、本研究では、拡大EUを比較軸として、アジア太平洋の地域統合化における、生産ネットワーク化を通じた「スピルオーバー効果」、資産市場・資産蓄積の拡大・深化による「サイクル効果」、さらに、両効果の相互作用を検証する。その上で、このような産業構造・金融資本市場の変容に対する新たな政策選択・開発戦略を構想する。

【当該研究から期待される成果】

アジア太平洋の貿易投資による地域統合化のエンジンは、貿易投資協定ではなく、多国籍企業である。拡大EUでも積極的な投資政策によってグローバル化戦略の基地としての産業再編を目指している。ここでは、地域統合化がどんな産業地図を描き、それがスピルオーバー効果を通じて地域の成長と循環にもたらす影響を明らかにしたい。他方、拡大EUでは共通通貨を軸としたマクロ経済政策の収束が図られているが、その経験は、初期条件その他が異なっても、今後のアジア太平洋の指針となる。ここでは、統合化によるサイクル効果に対して、金融仲介と資本市場の補完関係、通貨安定と対外調整のための地域通貨体制のデザインを示したい。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- Kohsaka, Akira, "A Fundamental Scope for Regional Financial Cooperation in East Asia," Yoshinori Shimizu, ed., *Economic Dynamism of Asia in the New Millenium: From the Asian Crisis to a New Stage of Growth*, World Scientific Publishing, Singapore, 2007, pp. 139-176.
- Kohsaka, Akira and Masahiro Enya, "The Balance Sheet Effects and Macroeconomic Development in the Pacific Region," *Asian Economic Papers*, vol. 6, issue 1, 2007, pp. 101-129

【研究期間】 平成20年度－23年度

【研究期間の配分（予定）額】

68,200,000 円（直接経費）

【ホームページアドレス】

<http://www2.osipp.osaka-u.ac.jp/~kohsaka>